戦前日本社会事業調査資料集成

シリーズ 完結

社会福祉調査研究会 編・発行

2019年12月刊

別巻（調査資料文献／概要）

補巻（災害救助）★残部僅少

2017年10月刊

近代日本社会のあらゆる領域研究に必携！

A5判・上製・クロス装

別巻 1225頁
補巻 830頁

社会事業、福祉・慈善事業から
経済・社会・思想・民衆・生活・医療
教育・地方・労働・貧困・災害等々

「別巻」で堂々シリーズ完結！

**近代日本の「実態」を伝える
厖大な〈調査〉資料から
いま必要な調査を探すための
文献案内＝別巻**

＊本書は『戦前日本社会事業調査資料集成』全10巻（勁草書房 1986-95）の別巻・補巻です。

補巻・別巻〈発売元〉

学術資料出版
大空社出版
www.ozorasha.co.jp

eigyo@ozorasha.co.jp
東京都北区中十条 4-3-2（〒114-0032）
TEL:03-5963-4451

戦前日本社会事業調査資料集成

別巻（調査資料文献／概要）

社会福祉調査研究会 編・発行〔発売元・大空社出版〕 全１冊
A5 判・上製・クロス装・1225 頁 ISBN978-4-908926-64-8 〈2019 年 12 月刊〉
本体 34,000 円

社会事業、福祉・慈善事業から経済・社会・思想・民衆・生活・医療 教育・地方・労働・貧困・災害等々

分類区分一覧

＊98 区分で資料を分類

貧困・困窮者/救済・救護
浮浪・ルンペン・行路病者
木賃宿/公的宿泊所（宿泊者）
屑拾い・バタヤ/残飯・残食物
水上生活者（水上児童含む）
貧民窟・スラム・不良住宅地区
不良住宅地区改良事業/改良後の生活状況
住宅困窮・住宅難/家賃問題
公的住宅（公営住宅・同潤会住宅）
生計・家計状態
救療/無料・軽費・実費診療
冷害・凶作
産業災害・鉱工業災害/戦争災害
廃兵・傷病兵・傷痍軍人/遺家族援護
営利職業紹介業/職業紹介事業
失業者・自由労働者（日稼・日雇）
婦人労働（女工・職業婦人）
物価騰貴と米騒動/経済保護事業
公設市場
営利質屋業/公益質屋
公設食堂/公衆浴場
内職・副業
授産事業・授産施設
隣保事業・セツルメント事業
農村社会事業・農山漁村の生活
乳児死亡/出生・死亡状況
妊産婦・乳幼児保健
児童の生活状況・実態/私生児・家出・浮浪・自殺
児童保護事業（概要・施設一覧）
児童保護活動/児童相談/一時保護
児童遊園・児童公園/遊び・玩具
欠食・栄養不良/給食・栄養補給
虚弱・病弱児/林間学校・転住施設
障害児童（特殊・異常児含む）
保育・託児所（常設）
工場鉱山の保育・託児
農繁期（季節）保育・託児
棄児/児童虐待/親子心中
育児・養育事業（育児院・孤児院）
乳児昼夜保育（乳児院）
里子・里親/家庭養育委託
貧児教育、不就学問題/就学奨励
児童労働・児童の就業状況
小卒児童の進路・希望/就職状況
少年職業紹介・就職後指導
不良児・非行問題一般
感化院・少年教護院/感化事業
少年院・少年審判所/保護少年
幼年監獄・少年受刑者
母子保護/母子ホーム（父子含む）
女中・派出婦・家政婦
芸娼妓・酌婦紹介業（公周施業）
人身売買・身売
娼妓・娼婦/廃娼運動
女給・ホステス
養老事業・養老院/老衰者
障害者（盲・不具・廃疾）
自殺
精神病
癩病（ハンセン氏病）
結核
花柳症・性病
麻薬など薬物中毒
出獄人・免囚保護/司法保護事業
内地居住の朝鮮人
社会保険（健保・年金・国保）
社会事業（施設）一覧・名鑑類（全国・地域）
社会事業概要・要覧類（全国・北海道・東北/東京・関東/中部・北陸・東海/関西/中国・四国/九州・沖縄）
都市社会事業/大都市比較
社会事業統計調査関係
社会事業行財政
社会事業奨励助成/共同募金/寄附金
委員制度（方面委員・救護委員など）
社会事業（施設）の連絡団体
社会事業（施設）の状況全般（視察報告/年表）
社会事業（施設）の経営/私営・公私問題
社会事業（施設）の入所・利用者/処遇
社会事業（施設）の入所・利用者/処遇
社会事業（施設）職員/功労者
社会事業（施設）の職員養成
社会事業全般/年鑑

＊次ページ

「概要」本文見本

戦前日本社会事業調査資料集成

別巻（調査資料文献／概要）

社会事業（社会福祉）調査資料文献［戦前期（明治後半期～1945年8月）］

約 **1300点**　かつてない規模・専門研究者執筆による最適の文献案内！

調査・研究は、この1冊から始まる！

今日的〈課題・問題〉へのヒントを蔵する資料群への有効な道案内

【編集・執筆者】　寺脇隆夫・大久保秀子・太田由加里・大友昌子・加瀬裕子・加登田恵子・田澤あけみ・月田みづえ・中村律子・西原香保里・西村みはる・野口典子・林（土岐）祥子・藤崎宏子・宮崎（松岡）英子・山田（村松）知子・山田祐子

◆各調査・資料の概要は以下の項目別に解題される。

①資料の概要　②資料の特徴
③調査の概要　④調査の内容
⑤集計の特徴　⑥資料の所蔵
⑦備考

「概要」本文見本（縮小）

【94】　社会事業（施設）の経営／私営・公私問題

〔9401〕　**「東京府市に於ける私營社會事業の現状」**　岡弘毅　1929. 8（№9006共同募金調査報告書、に所収）

〔資料の概要〕　①資料名：タイトルに同じ（前掲の№9006共同募金調査報告書中の四章）②作成者：岡弘毅　③作成年月：1929（昭和４）年８月　④判型：Ａ５判（活版印刷）⑤頁数：34（該当部分）

〔資料の特徴〕　本資料は、東京府社会事業協会の創設（1917＝大正６年）以来の中核的担い手であった協会常務幹事の岡弘毅が、1929年に協会が編者としてまとめた『共同募金調査報告書』の第四章として、執筆したものである。

そこでは、東京府管内の私営社会事業、とくにその経営状況に関するデータを紹介しつつ、経済難・経営難の問題を取り上げたものである。

〔資料の内容〕　本資料の内容は、タイトルに見られるように、東京（府・市）の私営社会事業の現状を取り上げたものだが、以下の構成（目次）と添付の関係表からなる。

第一節　団体及其の施設数
　府管内私営社会事業団体数、施設数（事業の種類別）
　東京府下私立救済団体能力調査表（昭和２年12月末日調）
第二節　私営社会事業の経済難の原因と現状
　私営社会事業発達調（経営主体創立年別）
　東京市設社会事業累年比較表（事業の種類別）
　東京府管内私営社会事業団体財源調（大正15年度決算に依る経常費に対する歳入科目別金額調）
第三節　私営社会事業の経営難の救済

〔資料の所蔵〕　――

〔備　　考〕　①『集成』への収録：なし　②他の復刻版：あり→『岡弘毅と社会事業／その足跡と遺稿』、編纂刊行会（都政人舎刊）（1980）

（編集部）

〔9402〕　**「私設社會事業團體寄附金收入額調〈昭和十年度ニ於ケル〉」**　社會局　1937. 12（［未公刊文書資料綴］社會事業に關する調査資料〈昭和十二年十二月〉に所収）

〔資料の概要〕　①資料名：タイトルに同じ（前掲№8817［未公刊文書資料綴］社会事業ニ関スル調査資料〈昭和十二年十二月〉の「四」）　②作成者：社会局　③作成年月：1937（昭和12）年12月　④判型：Ｂ５判（謄写印刷）　⑤頁数：２

〔資料の特徴〕　本資料は、社会局が1937（昭和12）年12月にまとめた［未公刊文書資料綴］社事業に関する調査資料中に含まれる資料で、1935（昭和10）年度の私設社会事業団体の

【16】　災害救助（震災・津波）

〔1601〕　**〔未公刊文書資料綴〕臨時救療事業一件**　済生會庶務部　1923. 9～24. 7

〔資料の概要〕　①資料名：タイトルに同じ〔未公刊文書資料綴〕　②作成者：済生会庶務部　③作成年月：1923（大正12）～24年頃　④判型：Ｂ５判（Ｂ４判二つ折り（表紙は厚紙に墨書した文書綴、内容は謄写印刷文書がほとんど）　⑤頁数：あわせて約360（Ｂ４判用紙で計187枚）　⑥調査票の添付：なし

〔資料の特徴〕　本資料は、済生会が1923（大正12）年から翌24年にかけて大震火災後に実施した臨時救療事業関係の諸文書類の綴（済生会庶務部内で作成・検討された諸文書の綴・厚さ３cm余）である。

庶務部内の保存用の文書綴というべきものであるが、当時（震災後）の臨時救療事業の雰囲気がストレートに伝わってくる感がある。

〔資料の内容〕　本資料に含まれる文書資料は、分量が多く（数え方にもよるが80点前後にもおよぶ）、救療関係とは言え多様なので、主要なものや重要と思われるものを中心に、その三分の一強ほどを以下に示した。なお、これらのうちそれぞれのタイトル末尾に＃印を付したもの（６点）については、その概要について本書で取り上げ、紹介している（括弧内に本書の収録№を表示）。

＊主な綴文書のタイトル・内容（綴順のため、日付順ではない）

・済生会震災救療並計画報告（大正十二年九月二十五日）　謄写印刷　Ｂ４判便箋２枚＃（→№1602参照）
・臨時救済部職制内規　謄写印刷　Ａ４判便箋２枚（「決定案/十月十日」の書込み）
・タイトルなし（第一計画／第二計画）　謄写印刷　Ｂ４判３枚（「決定案」の書込み）
・臨時震災救療諸費実行予算案（概計／内訳）　謄写印刷　Ｂ４判４枚（「確定」の書込み）
・臨時費実行予算概計（概計／内訳）　謄写印刷　Ｂ４判５枚（「確定」の書込み）
・十月十日調〔既定支出額〕　謄写印刷　Ｂ４判１枚／各部局別予算総括書　謄写印刷　Ｂ４判３枚
・臨時震災救療諸費本部予算内訳書　謄写印刷　Ｂ４判１枚／臨時震災救療費各部局配当表
・病院、産院、乳児院予算　謄写印刷　Ｂ４判１枚／各病院、産院、乳児院職員配置定員表　謄写印刷　Ｂ４判１枚
・臨時救療機関ノ現況〈大正十三年二月十日調〉　済生会　謄写印刷　Ｂ４判１枚（表紙含む）　＃（→№1611参照）
・参考／患者数摘要　謄写印刷　Ｂ４判１枚／診療機関一覧表〈大正十三年二月十日現在〉　謄写印刷　Ｂ４判３枚
・（臨時施設）臨時巡回看護班概要〈大正十三年三月〉　済生会　謄写印刷　Ｂ４判６枚　目次あり　＃（→№1614参照）

戦前日本社会事業調査資料集成

補巻（災害救助）

★残部僅少

社会福祉調査研究会 編・発行〔発売元・大空社出版〕 全１冊

A5 判・上製・クロス装・830 頁
ISBN978-4-908926-18-1
〈2017 年 10 月刊〉

本体 20,000 円

本文見本（縮小）

〈一般災害〉7・大震災と社会事業（大正15、未公刊）より

2,500円00銭

(15) 現況

大正十四年九月十五日旧所ヨリ移転シ日尚浅キ為諸般ノ設備充分
立セズ現在（十五・二・二四）収容人員十七名園外ニハ約八九
人ヲ求メラレ成績ノ良好ナルモノヲ奉公セシムルコトトセリ、
教練、娯楽、野球、遠足、フットボール、ランニング

〔007〕 浅草観音浅草寺病院

(1) 名称
浅草観音浅草寺病院

(2) 代表者職氏名
浅草寺住職　救護栄海

(3) 事務所所在地
本部：浅草公園浅草寺社会部内　支部：浅草公園弁天山下病院

(4) 事業施行地
浅草公園地第二区弁天山下

(5) 創立年月日
明治四拾参年八月十五日

(6) 組織
個人経営

(7) 目的及事業ノ種類
目的：治病起信
事業ノ種類：細民救療事業

(8) 大震火災ニ因ル損害
・建物　全焼：三棟二十八坪　損害見積額：8,600円
・什器其他　全焼：全部　損害見積額：約5,000円
・計　損害見積額：13,600円

〈一般災害〉1・罹災者「バラック」生活実情調査（大正12）より

〔本文〕

罹災者「バラック」生活実情調査

一、序言

凡そ、貧苦欠乏を救済するには、物資を以てすべきは言ふまでもないが、精神的指導救済も亦欠くべからざる一面である。況や今回の様な、突差急激の間に生じた異常の変異災厄が人心に一大衝動を与へた場合には殊に然りである。然るに多くの場合に於いて、此の方面がいつも忽諸〔ママ〕に附せられるのは誠に遺憾な事である。而して彼らに接触することは一面又、罹災当事者より見た処の諸般の希望、批判、観察等彼等の心理状態の一班をも窺ふ事が出来るから、以て正鵠適切なる対策の資料を見出す事も出来やう。

即ち斯うした両面の意味を持って、主として婦人事務員をして精神的慰問をなし、兼ねて諸項の調査をすすめた次第である。

二、慰問及調査諸項並に其区域と日程

（一）慰問

精神的慰問

調査戸数

調査箇所	麹町	日本橋	京橋	芝	麻布	四谷	神田	本郷	下谷	浅草	本所	深川	府下	横浜市	計
芝公園	一	四	三	三八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四七
宮城前	一	三	九	一	一	一	二	一	一	一	一	五	一	一	二〇
日比谷公園	一	一	四	一	一	一	一	一	一	一	二				
上野公園	一	一	一	一	一	一	二	一	一四	九	九				

（二）調査
（一）食料　（二）衣服
（三）住居　（四）光熱水道
（五）衛生　（六）通信
（七）復興に対する方針
（八）救済に対する所感
（九）最も困難とする事項

（三）慰問及調査の区域と日程
一、芝公園　九月二十一日
二、宮城前　九月二十六日
三、日比谷公園　九月二十六日
四、上野公園　十月二日
五、本所深川方面　十月四日
六、芝離宮　十月五日
七、新宿御苑　十月八日
八、靖国神社　十月八日
九、本所被服廠跡附近　十月十日
十、明治神宮外苑　十月十一日

又、調査戸数並に避難者の元住居して居た区別ある。（附帯調査として、職業及世帯員の性別等を

〈一般災害〉4・罹災要救護者収容所概要（昭和2）より

（一の其）況状給配品救恤の市本るけ於に後震災震大東関

（二の其）況状給配品救恤の市本るけ於に後震災震大東関

65 罹災要救護者収容所概要

〈産業災害〉鉱毒地の惨状（明治35）より

は位牌計を跡に残して売れる丈は売尽して立退いた破家の内を窺いた時の感情である

●落葉にまじる村時雨

憐れむべき児童の一群は我等の一行の眼前に進つて殊に注意を惹起し た中には背負へる赤子を半ば背中より現はして己が肌を寒風にさらし て一向感じもない子等が沢山あるいかに家か野原か分らぬ吹通しの破 屋に育つたとは云へ会りといへば驚く計りの有様で身には草物か綿入 か衣物か襤褸か何とも名状する事の出来ない物を纏はせられて青い鼻 を垂しながら幾人も〳〵の児童が物珍らしげに我等が左右に集つて来

265 鉱毒地の惨状　第一篇

補一11-(2) 各道府県の罹災救助基金現在高の推移（1918～39年度） その①（北海道～埼玉）

＊1．本資料（補11-(2)は、以下に示す典拠文献から、罹災救助基金法による各道府県の罹災救助基金の現在高（積立額）の推移を見たものである（金額は千円単位に簡略化）
a：帝国統計年鑑（刊行回数）　b：内務省統計報告（刊行回数）
c：社会事業統計要覧（刊行回数、当初のものは調査年）　d：日本社会事業年鑑（刊行年次）
＊2．なお、ここに示した以外の時期（年度）については、残念ながら当該典拠文献では得られず、その数値（→

時期／年度——典拠文献	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉
年度　　年度	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
1918／大7——b 34＃	802	561	751	719	795	797	709	1150	915	895	1346
1919／大8——b 33＃	885	587	755	748							
1920／大9——b 35＃	995	614	767	779							
同——c 要覧大9※	1021	610	765	776							
1921／大10——b 36＃	1101	630	769	728							
1922／大11——b 37＃	1153	650	797	759							
同——b 38※、c 統覧11※	1162	660	784	753							
1923／大12——b 39※、c 統要12※	1152	690	806	787							
1924／大13——b 40※、c 7※	1197	719	822	819							
1925－a 47※、b 41※、c 8※	1202	718	845	859							
1926－a 48※、b 42※、c 9※	1270	744	872	898							
同——c 6＃	1317	720	882	905							
1927／昭2——a 49※、b※	1326	780	882	950							
1928／昭3——b 44※	1386	808	914	985							
1929／昭4——a 50※	1475	837	953	1008							
同——b 43＃	1449	820	965	1036							
同——b 44＃	1438	837	945	1005							
同——c 9※、c 10※	1370	820	945	1007							
1930／昭5——a 51※	1374	870	976	1062							
同——b 45※、c 11※	1373	862	912	1062							
1931／昭6——a 52※	1423	910	974	1117							
同——b 46※、c 12※	1485	1075	934	1118							
1932／昭7——a 53※	1194	771	957	1176							
同——b 47※	1206	817	918	1246							
＊同——c 11※	1156	847	940	1250							
1933／昭8——a 54※	751	686	486	1124							
同——b 48※	746	687	486	1180							
同——c 12※	717	683	971	1193							
1934／昭9——c 55※	764	583	503	1126							
同——b 49※	713	762	483	1125							
同——c 13※	709	659	464	1199							
1935／昭10——a 56※	864	583	560	1106							
同——c 14※	812	608	508	1041							
1936／昭11——a 57※	813	543	559	1080							
同——c 15※	736	566	515	1114							
1937／昭12——d 13※	865	552	571	1128	1037	1461	1197	1913	1749	1304	2489
1938／昭13——c 16＃	990	559	559	1166	1060	1518	1207	1938	1818	1438	2518
同——c 16※、d 14・15※	937	580	595	1205	1060	1438	1184	1702	1867	1526	2557
1939／昭14——d 14・15＃	1107	569	565	1136	1057	1518	1204	1720	1671	1460	2404

373 罹災救助基金法施行関係資料

〔456〕

〈罹災救助基金法関係〉11.(1)（1931 頃、未公刊）より